



〒975-0031  
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地  
TEL:(0244)26-1315  
FAX(0244)26-1318  
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

令和6年度 地域でつながる家庭教育応援事業 家庭教育応援リーダー育成事業  
**家庭教育支援者研修会相双地区研修**

- 日 時：令和6年11月8日（金）13：30～16：10
- 会 場：福島県立テクノアカデミー浜
- 内 容：青少年のネットメディア利用の現状と課題  
～デジタル社会で大人ができること～
- 講 師：医療創生大学 心理学部 教授 中尾 剛 氏
- 参加者：20名（教職員2、行政職員7、保護者2、放課後子ども教室等関係者1、子育て支援者8）



**講話：青少年のネットメディア利用の現状と課題 ～デジタル社会で大人ができること～**

中尾先生から90分間、たつぷりとネットメディアとの付き合い方についてのお話を聞くことができました。中身の濃いあつというまの90分間でした。それぞれの立場で講話の受けとり方も様々だったようですが、たくさんの示唆を得ることができました。一部ですが紹介いたします。

○サイレントベイビーが学校へ入学する

最近では育児をしながらスマホを操作する保護者の方が増えているそうです。お世話をしてもらっている間、赤ちゃんは自分に関心を持ってもらっているかどうか大切です。しかし、スマホに夢中な親は赤ちゃんに関心を示さずに単なる育児の作業になっています。すると赤ちゃんは「泣いても笑っても関心を持ってもらえないんだ」という諦めの気持ちを抱いてしまい、サイレントベイビーになってしまいます。このような子は幼稚園や学校で周囲と上手くなじめずに孤立しがちになってしまいます。

○デジタル機器の子育ての影響

今は、「寝返りした！」「初めて〇〇した！」「立った！」など、何かにつけてスマホで記録をします。成長するたびにスマホを向けて子供の行動を邪魔します（うまく撮影できないと撮影しなおすことも・・・）。子どもの生活はスマホによる中断は当たり前です。ところが子どもがスマホを持つようになると「食事中にスマホはダメよ」「よそ見をしないで集中しなさい」と注意されます。それまでの生活と180度反対のことを言われ、混乱する子どもたちがいます。

○ネット依存への対策

早期発見・早期介入する（ネット依存は短期間に深刻化する）

- ・ 小さなサインを見落とさない
- ・ スクリーニングテストを実施する

本人から話を聴き要因を探る

- ・ 本人からネット使用の話をよく聴く（否定せずに話を聴くこと）
- ・ 学校や家庭、現実の日常生活につまずきはないか
- ・ 発達的あるいは精神的な問題はないか

○ネットの危険から守るためには

- 日頃から子ども達の様子を視る（「見る」ではない）
- 大人は、子どもの自己有用感を高める
- 子どもは、多様性と寛容さを学ぶ



## 研修の感想

- デジタル社会でのメディアの利用について、今までこんなに詳しくお話を聞いたことが無かったため、ここに参加できともうれしく思います。子どもに携わる仕事でもあるので、学べたことを活かしたいと思いました。また、自分自身がスマホに依存していないか？と改めて考える機会にもなりました。我が子と一緒にお話を聞けたらなおよかったなとも思いました。ありがとうございました。
- 内容を聞いて、今の自分の状況（生活）を振り返ってみると、常に手元や近くにスマホがあることに気付けた。グループワークの中で、タブレットを導入しての学習をし、学習面でも使う機会が多くなり、自分で考えたりする場面が減っていると思いました。仕事で取り組んでいる学習の中で「自分で考える」場面など多く取り入れてみようと思った。
- 大変有意義な話を聞かせていただきました。今の子ども達に大切な見積りの話はネット社会の課題であること等、納得でした。
- とても勉強になりました。ありがとうございました。スマホ、ゲーム等は家庭内で話し合い、利用に関して視ることはできますが、学校からのタブレットを視ることに限界があると常々思っております。とてもいい内容の研修ですので、小・中学校でも公演していただきたいと思いました。
- 「子どもは親の鏡」という言葉を聞き、普段何となくスマホをいじってしまうことがあるので、気を付けていこうと感じた。



- スーパーや外食先で、赤ちゃんがスマホを見ている様子をよく見ます。スマホを与えていれば子どもは落ち着くから親は楽なのだと思いますが、今日のお話を聞いて、やっぱり目を合わせて会話をする大切さを実感しました。教職員はもちろんですが、小さい子どもをもつ親や、これから親になる人たちこそ今日と同じ話を聞くべきだと思います。これから生きていくためには、ネットは必要不可欠なので、上手な使い方を大人こそ学ぶべきだと思います。

- 日々メディアやデジタル機器の利用のあり方について考えさせられる場面が多くなったと感じておりました。中尾先生のお話を多くの方に聞いていただきたいと心から思いました。本日はありがとうございました。
- インターネットは道であり、道の使い方は親が教えることが基本であり、子どもが自律できるよう子どもに考えさせることの大切さを学びました。大人が自分を振り返るとともに、子どもの過ごしている状況、思いを話せる場を作っていければと思います。ありがとうございました。
- まずは家庭でのネットメディア利用に気を付けたいと思いました。「子どもは親の鏡」の言葉、刺さりました！
- 本日は貴重な御講話をありがとうございました。メディアの悩み～今、保護者様の大きな悩みとして日々相談を受けているところで、お話の中で少し関わり方に光が見えてきた感じがします。今後もまたお話を拝聴させていただきたいと思います。（学校やその他の団体にもアプローチさせていただきます）
- 「子どもは親の鏡」まずは親である自分のネットメディアの使い方を振り返りたいと思いました。本日はありがとうございました。
- まずは「子ども達に考えさせる」「見積り」など今後参考になる言葉ばかりでしたが、子ども達への声のかけ方やこれまでの自分はどうだったか考えながら話を聞きました。今回、先生の話を受けて本当によかったと思いました。今日の話を実業所内でも話をしようと思います。
- 本日は大変お世話になりました。とても身になる研修内容となり、現場で子ども達への接し方や家庭支援にもつながると思いました。貴重な時間をありがとうございました。
- 先日、県PTA郡山研究大会家庭教育分科会でスマイリーキクチさんが講師でした。子どもが被害者になったり加害者になったりすることがあるので、その一言は相手にはどう感じるのか想像しながら考える場も必要だと感じます。

